



令和6年度

茨城県優良図書紹介【中学生向け】



『さみしい夜にはペンを持って』

古賀史健/著、ならの/絵（ポプラ社）

主人公のタコジローは人前で話すときなどすぐに顔が赤くなってしまう。それをクラスの仲間にかかわれ何事にも自信を持ってないでいた。あるとき出会ったおじさんやドカリから、考えることの大切さや日記を通して自分の周りのものを見る目を養う大切さを学び少しずつ成長していく。



『アップサイクル！ぼくらの明日のために』

佐藤まどか（ポプラ社）

夏休みの社会科の宿題のグループ研究で集まった中学生の三人が、廃材を使ったアップサイクルを始めた。三人の個性と強みでアイデアを次々と実現させ、ついには起業を目指す！三人それぞれの個性と強みを生かし、アイデアを次々と実現させ困難も乗り越えていく話。



『きみの話を聞かせてくれよ』

村上雅郁 /作、カシワイ/絵（フレーベル館）

「心配しないでいい。ちゃんと伝わる。きっとなにもかもうまくいく。」もやもやした心やずっと抱えてきた秘密。不安な気持ちに寄り添って、心の内を聞いてもらうことで、自分の本当の気持ちのままでいいんだと勇気をもらえる作品。

『答えは旅の中にある』 小手鞠るい (あすなろ書房)



三月の春休みに、旅に出た15歳の二人。日本人の母をもちエルパソに住むエレナと父の仕事の赴任先のウッドストックに住む道生。エルパソとウッドストックでの偶然の出会いとそれぞれの旅で、二人はどんな「答え」を見つけたのだろうか。初めて訪れた土地の文化や人との関わりを通して、自分の大切なものに気付いていく話。

『ノクツドウライオウ 靴ノ往来堂』

佐藤まどか (あすなろ書房)



100年続く老舗靴店「往来堂」は、オーダーメイドの靴屋さん。シューズデザイナーを夢見る中学生の夏希は、「往来堂」の靴を履く人の人生が変わるのを見る度に新たな思いが芽生えてきて…。

商品を安く手に入れ古くなったらどんどん買い変えていくことに疑問を投げかけ、いいものを長く使うことの価値に気づかせてくれる。

『ココロノナカノノ』

戸森しるこ/著、カシワイ/絵 (光村図書)



生まれる前に双子の妹の野乃を亡くした寧音。中学生の今も、野乃は心の中にいる特別な存在。ある日、母のおなかに新しい命が宿り…。「わたしの大切な、妹のこと。」家族に大切にされることのよさが伝わってくる。また、主人公の友達との繊細な関係性やそのやりとりが同世代に共感できる。



『ルール！』 工藤純子（講談社）

主人公の朝比奈知里は、ひよんなことから校則を破ってしまい、三崎先生から反省文の提出を求められた。その出来事をきっかけに校則についての疑問が膨らんでいく。文芸部の仲間や生徒会の先輩たちと共に生徒のための校則をつくるための行動を起こしていく。



『彼女たちのバックヤード』 森埜こみち（講談社）

詩織、千秋、璃子はクラスの中でも仲の良い友達である。シングルマザーの母と小さなマンションで暮らす詩織、小さい頃に母を亡くし荒れていた時期をもつ千秋、障害のある弟をもつ璃子、それぞれのバックヤードのことは話せないまま付き合っていた3人が、自分の思いを伝えることができるようになり、お互いを認め合えるようになることで成長していく様子に勇気をもらえる作品である。



『アナタノキモチ』 安田夏菜（文研出版）

「地球の中ってのは、人の心みてえだな。」人の心の中は思っているよりずっと深いから、ほんの表面しか見えない。友達の心も。いちばん身近な家族の心でさえも…。人の気持ちかわからないのは、ハルくんだけだろうか？

『ハーベスト』 花里真希（講談社）



ハーベストとは「農作物を収穫すること」という意味がある。園芸部に集まった3人はそれぞれが悩みを抱えている。朔弥はかんもくで自分の意見を言う事が苦手。諒は小学校からの友達との確執をひきずっている。アズサは帰国子女だが、日本でうまくいかない問題をアメリカの方がよかったと逃げている。この3人が、園芸部の活動を通して、少しずつ成長していく物語。

『空と星と風の歌』

小手鞠るい/作、堀川理万子/絵（童心社）



この本に取り上げられている3つの作品は、いずれも在日朝鮮人に対する差別がテーマになっている。内容はフィクションであると説明されているが、実際に起きている民族の差別の事実と大差はないはずである。しかも、過去の話ではなく戦後80年近くたつ現在も続いている人権問題である。人間がよりよく生きるためにはどうしたらよいか真剣に話し合いたい内容である。

『ある日、戦争がはじまった』

12歳のウクライナ人少女イエバの日記』

イエバ・スカリエツカ/著、神原里枝/訳（小学館）



ハルキウで戦火にさらされた避難民の少女が日記につづった戦争体験。フィクションではなく12歳の少女の手記であることが、戦争の悲惨さがリアルに伝わってくる。中学生と共に読み世界平和について共に考えるためのよきテキストである。